

推定結果の表記方法： 回帰モデル：

$$Y_i = \alpha + \beta X_i + u_i$$

の推定の結果， $\hat{\alpha} = 0.5$ ， $\hat{\beta} = 0.7$ ， $s_{\hat{\alpha}} = \sqrt{1.5766667} = 1.25565$ ， $s_{\hat{\beta}} = \sqrt{0.1433333} = 0.3786$ ， $\frac{\hat{\alpha}}{s_{\hat{\alpha}}} = 0.398$ ， $\frac{\hat{\beta}}{s_{\hat{\beta}}} = 1.849$ ， $s^2 = 1.433333$ （すなわち， $s = 1.197$ ）， $R^2 = 0.5326$ ， $\bar{R}^2 = 0.3768$ を得た。

これらをまとめて，

$$Y_i = \begin{array}{c} \mathbf{0.5} \\ \mathbf{(0.398)} \end{array} + \begin{array}{c} \mathbf{0.7} \\ \mathbf{(1.849)} \end{array} X_i$$

$$R^2 = 0.5326, \quad \bar{R}^2 = 0.3768, \quad s = 1.197$$

ただし，係数の推定値の下の括弧内は  $t$  値を表すものとする。

または,

$$Y_i = \begin{array}{c} \mathbf{0.5} \\ \mathbf{(1.256)} \end{array} + \begin{array}{c} \mathbf{0.7} \\ \mathbf{(0.379)} \end{array} X_i$$

$$R^2 = 0.5326, \quad \bar{R}^2 = 0.3768, \quad s = 1.197$$

ただし, 係数の推定値の下の括弧内は標準誤差を表すものとする。

のように書く。

### 5.3.11 予測

$X_0$  を与えたもとで,  $Y_0$  の予測量  $\hat{Y}_0$  は,

$$\hat{Y}_0 = \hat{\alpha} + \hat{\beta}X_0$$

となる。

ただし,  $Y_0$  と  $X_0$  との関係は,

$$Y_0 = \alpha + \beta X_0 + u_0$$

$$u_0 \sim N(0, \sigma^2)$$

である。  $u_0$  は  $u_1, u_2, \dots, u_n$  から独立とする。

予測誤差  $\hat{Y}_0 - Y_0$  は ,

$$\hat{Y}_0 - Y_0 = (\hat{\alpha} - \alpha) + (\hat{\beta} - \beta)X_0 - u_0$$

となる。

予測誤差の期待値と分散： 両辺に期待値をとると ,

$$\mathbf{E}(\hat{Y}_0 - Y_0) = \mathbf{E}(\hat{\alpha} - \alpha) + \mathbf{E}(\hat{\beta} - \beta)X_0 - \mathbf{E}(u_0) = 0$$

を得る ( $\hat{\alpha}$  ,  $\hat{\beta}$  の不偏性と  $u_0$  の仮定より)。

$\mathbf{E}(\hat{Y}_0 - Y_0) = 0$  なので ,  $\mathbf{E}(\hat{Y}_0) = \mathbf{E}(Y_0) = \alpha + \beta X_0$  となる。

(注意)

$\mathbf{E}(\hat{Y}_0 - Y_0) = 0$  は正しい書き方であるが、 $\mathbf{E}(\hat{Y}_0) = Y_0$  とは書けない。

$Y_0 = \alpha + \beta X_0 + u_0$  なので、 $Y_0$  も確率変数なので、 $\mathbf{E}(\hat{Y}_0) = \mathbf{E}(Y_0) \neq Y_0$  となる。

分散について、

$$\begin{aligned}\mathbf{V}(\hat{Y}_0 - Y_0) &= \mathbf{E}((\hat{Y}_0 - Y_0)^2) \\ &= \mathbf{E}((\hat{\alpha} - \alpha) + (\hat{\beta} - \beta)X_0 - u_0)^2 \\ &= \mathbf{E}((\hat{\alpha} - \alpha)^2) + X_0^2 \mathbf{E}((\hat{\beta} - \beta)^2) + \mathbf{E}(u_0^2) + 2X_0 \mathbf{E}((\hat{\alpha} - \alpha)(\hat{\beta} - \beta)) \\ &\quad - 2\mathbf{E}((\hat{\alpha} - \alpha)u_0) - 2X_0 \mathbf{E}((\hat{\beta} - \beta)u_0)\end{aligned}$$

各項の期待値は，

$$\mathbf{E}((\hat{\alpha} - \alpha)^2) = \mathbf{V}(\hat{\alpha}) = \sigma^2 \left( \frac{1}{n} + \frac{\bar{X}^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2} \right)$$

$$\mathbf{E}((\hat{\beta} - \beta)^2) = \mathbf{V}(\hat{\beta}) = \frac{\sigma^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}$$

$$\mathbf{E}(u_0^2) = \sigma^2$$

$$\mathbf{E}((\hat{\alpha} - \alpha)(\hat{\beta} - \beta)) = \mathbf{Cov}(\hat{\alpha}, \hat{\beta}) = -\frac{\sigma^2 \bar{X}}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}$$

$$\mathbf{E}((\hat{\alpha} - \alpha)u_0) = 0$$

$$\mathbf{E}((\hat{\beta} - \beta)u_0) = 0$$

となるので，

$$\mathbf{V}(\hat{Y}_0 - Y_0) = \sigma^2 \left( \frac{1}{n} + \frac{\bar{X}^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2} \right) + \frac{\sigma^2 X_0^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2} + \sigma^2 - \frac{2\sigma^2 X_0 \bar{X}}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}$$

$$= \sigma^2 \left( 1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2} \right)$$

を得る。

$X_0 = \bar{X}$  のとき、予測分散が最小になり、そのときの予測分散  $V(\hat{Y}_0 - Y_0)$  の値は  $\sigma^2 \left( 1 + \frac{1}{n} \right)$  となる。

$X_0$  が  $\bar{X}$  から離れるにつれて、予測分散は大きくなる。

予測の区間推定：  $\hat{Y}_0 - Y_0$  の分布は、

$$\hat{Y}_0 - Y_0 \sim N \left( 0, \sigma^2 \left( 1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2} \right) \right)$$

となり，よって，

$$\frac{\hat{Y}_0 - Y_0}{\sigma \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}} \sim N(0, 1)$$

を得る。

一方， $s^2$  について，

$$\frac{(n-2)s^2}{\sigma^2} \sim \chi^2(n-2)$$

となる。

$$\text{ただし， } s^2 = \frac{1}{n-2} \sum_{i=1}^n (Y_i - \hat{\alpha} - \hat{\beta}X_i)^2 = \frac{1}{n-2} \sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2 \text{ である。}$$

$\hat{Y}_0 - Y_0$  と  $s^2$  は独立なので (証明略) ,

$$\frac{\frac{\hat{Y}_0 - Y_0}{\sigma \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}}}{\sqrt{\frac{(n-2)s^2}{\sigma^2} / (n-2)}} = \frac{\hat{Y}_0 - Y_0}{s \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}} \sim t(n-2),$$

となる。

$t_{\alpha/2}(n-2)$  を , 自由度  $n-2$  の  $t$  分布から得られた  $100 \times \alpha$  % 点の値とすると ,

$$\mathbf{Prob} \left( -t_{\alpha/2}(n-2) < \frac{\hat{Y}_0 - Y_0}{s \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}} < t_{\alpha/2}(n-2) \right) = 1 - \alpha$$

となり,

$$\begin{aligned} \text{Prob} \left( \hat{Y}_0 - t_{\alpha/2}(n-2) \times s \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} \right. \\ \left. < Y_0 < \right. \\ \left. \hat{Y}_0 + t_{\alpha/2}(n-2) \times s \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} \right) = 1 - \alpha \end{aligned}$$

となる。

$\hat{Y}_0$ ,  $s^2$  に推定値を代入して, 信頼係数  $1 - \alpha$  の  $Y_0$  の信頼区間は,

$$\left( \hat{Y}_0 - t_{\alpha/2}(n-2) \times s \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}, \hat{Y}_0 + t_{\alpha/2}(n-2) \times s \sqrt{1 + \frac{1}{n} + \frac{(X_0 - \bar{X})^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} \right)$$

が得られる。

数値例： 今までと同様に，以下の数値例をとりあげる。

$i$	$X_i$	$Y_i$	$X_i^2$	$X_i Y_i$	$\hat{Y}_i$	$\hat{u}_i$
<b>1</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>25</b>	<b>20</b>	<b>4.0</b>	<b>0.0</b>
<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1.2</b>	-0.2
<b>3</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>9</b>	<b>3</b>	<b>2.6</b>	-1.6
<b>4</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>1.9</b>	<b>1.1</b>
<b>5</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>16</b>	<b>16</b>	<b>3.3</b>	<b>0.7</b>
合計	$\sum X_i$	$\sum Y_i$	$\sum X_i^2$	$\sum X_i Y_i$	$\sum \hat{Y}_i$	$\sum \hat{u}_i$
	<b>15</b>	<b>13</b>	<b>55</b>	<b>46</b>	<b>13</b>	<b>0.0</b>
平均	$\bar{X}$	$\bar{Y}$				
	<b>3</b>	<b>2.6</b>				

必要な数値は，

$$\bar{X} = 3$$

$$\sum_{i=1}^n X_i^2 = 55$$

$$\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2 = \sum_{i=1}^n X_i^2 - n\bar{X}^2 = 55 - 5 \times 3^2 = 10$$

$$\hat{Y}_0 = \hat{\alpha} + \hat{\beta}X_0 = 0.5 + 0.7X_0$$

$$s = \sqrt{1.433333} = 1.197$$

である。

$X_0 = 6$  のときの，信頼係数 **0.90** の  $Y_0$  の信頼区間は， $t_{0.05}(3) = 2.3534$ ， $\hat{Y}_0 = 0.5 + 0.7 \times 6 = 4.7$

なので,

$$\begin{aligned} & \left( 4.7 - 2.3534 \times 1.197 \sqrt{1 + \frac{1}{5} + \frac{(6-3)^2}{10}}, 4.7 + 2.3534 \times 1.197 \sqrt{1 + \frac{1}{5} + \frac{(6-3)^2}{10}} \right) \\ & = (0.61775, 8.75225) \end{aligned}$$

を得る。



重相関 R	0.7298
-------	--------

→  $\hat{Y}_i$  と  $Y_i$  との相関係数

重決定 R2	0.532609
--------	----------

→ 決定係数 (=  $\hat{Y}_i$  と  $Y_i$  との相関係数の二乗)

補正 R2	0.376812
-------	----------

→ 自由度修正済み決定係数

標準誤差	1.197219
------	----------

→ 回帰式の標準誤差  $s$

観測数	5
-----	---

→ 標本数 (データ数)  $n$

標準誤差
1.255654
0.378594

→ 各係数の標準誤差 (上段は  $s_{\hat{\alpha}}$ , 下段は  $s_{\hat{\beta}}$ )

t
0.398199
1.848947

→  $t$  値 (上段は  $H_0: \alpha = 0$ , 下段は  $H_0: \beta = 0$  の検定)

下限 95%	上限 95%
-3.49605	4.496051
-0.50485	1.904855

→ 95%信頼区間 (上段は  $\alpha$ , 下段は  $\beta$  の信頼区間), F 列・G 列

下限 95.0%	上限 95.0%
-3.49605	4.496051
-0.50485	1.904855

→ 95%信頼区間 (上段は  $\alpha$ , 下段は  $\beta$  の信頼区間)

H 列・I 列 (F 列・G 列と同じもの, ただし, 変更可能)

# ● H 列・I 列の変更方法

「有意水準 (O)」にチェックを入れ、その横の欄に例えば 99 とタイプする。

「一覧の出力先 (S)」の横の欄には A26 から出力するように指定する（出力結果が重ならないように）。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	5	4											
2	1	1											
3	3	1											
4	2	3											
5	4	4											
6													
7	概要												
8													
9	回帰統計												
10	重相関 R	0.7298											
11	重決定 R2	0.532609											
12	補正 R2	0.376812											
13	標準誤差	1.197219											
14	観測数	5											
15													
16	分散分析表												
17		自由度	変動	分散	割られた分散	有意 F							
18	回帰	1	4.9	4.9	3.418605	0.161594							
19	残差	3	4.3	1.433333									
20	合計	4	9.2										
21													
22		係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%				
23	切片	0.5	1.255654	0.398199	0.717129	-3.49605	4.496051	-3.49605	4.496051				
24	X 値 1	0.7	0.378594	1.848947	0.161594	-0.50485	1.904855	-0.50485	1.904855				

回帰分析

入力元  
入力 Y 範囲(Y): \$B\$1:\$B\$5  
入力 X 範囲(X): \$A\$1:\$A\$5

ラベル(L)       定数に 0 を使用(Z)  
 有意水準(O) 99 %

出力オプション  
 一覧の出力先(S): \$A\$26  
 新規ワークシート(P):  
 新規ブック(W)

残差  
 残差(R)       残差グラフの作成(D)  
 標準化された残差(I)       観測値グラフの作成(I)

正規確率  
 正規確率グラフの作成(N)

OK  
キャンセル  
ヘルプ(H)

「OK」ボタンを押すと、

26	概要								
27									
28	回帰統計								
29	重相関 R	0.7298							
30	重決定 R2	0.532609							
31	補正 R2	0.376812							
32	標準誤差	1.197219							
33	観測数	5							
34									
35	分散分析表								
36		自由度	変動	分散	割られた分散	有意 F			
37	回帰	1	4.9	4.9	3.418605	0.161594			
38	残差	3	4.3	1.433333					
39	合計	4	9.2						
40									
41		係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 99.0%	上限 99.0%
42	切片	0.5	1.255654	0.398199	0.717129	-3.49605	4.496051	-6.83416	7.83416
43	X 値 1	0.7	0.378594	1.848947	0.161594	-0.50485	1.904855	-1.51133	2.911333

と出力される。

H 列・I 列が下記のように 99%信頼区間になる。

下限 99.0%	上限 99.0%
-6.83416	7.83416
-1.51133	2.911333

90%信頼区間になると、次のページ。

45	概要								
46									
47	回帰統計								
48	重相関 R	0.7298							
49	重決定 R2	0.532609							
50	補正 R2	0.376812							
51	標準誤差	1.197219							
52	観測数	5							
53									
54	分散分析表								
55		自由度	変動	分散	割られた分散	有意 F			
56	回帰	1	4.9	4.9	3.418605	0.161594			
57	残差	3	4.3	1.433333					
58	合計	4	9.2						
59									
60		係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 90.0%	上限 90.0%
61	切片	0.5	1.255654	0.398199	0.717129	-3.49605	4.496051	-2.45501	3.45501
62	X 値 1	0.7	0.378594	1.848947	0.161594	-0.50485	1.904855	-0.19097	1.590969

さらに、残差と Y の予測値を出力するためには、「残差グラフの作成(D)」、「観測値グラフの作成(I)」にチェックを入れて、「OK」ボタンを押す。

回帰分析

入力元

入力 Y 範囲(Y): \$B\$1:\$B\$5 ↑

入力 X 範囲(X): \$A\$1:\$A\$5 ↑

ラベル(L)       定数に 0 を使用(Z)

有意水準(Q)      90 %

出力オプション

一覧の出力先(S): \$A\$64 ↑

新規ワークシート(P):

新規ブック(W)

残差

残差(R)       残差グラフの作成(D)

標準化された残差(I)       観測値グラフの作成(I)

正規確率

正規確率グラフの作成(N)

OK

キャンセル

ヘルプ(H)



## 5.4 確率的モデル：重回帰モデル

$n$  組のデータ  $(Y_i, X_{1i}, X_{2i}, \dots, X_{ki})$ ,  $i = 1, 2, \dots, n$  を用いて,  $k$  変数の多重回帰モデルを考える。

$$Y_i = \beta_1 X_{1i} + \beta_2 X_{2i} + \dots + \beta_k X_{ki} + u_i$$

ただし,  $X_{ji}$  は  $j$  番目の説明変数の第  $i$  番目の観測値を表す。

$u_i$  は誤差項 (または, 攪乱項) で, 同じ仮定を用いる (すなわち,  $u_1, u_2, \dots, u_n$  は互いに独立に, 平均ゼロ, 分散  $\sigma^2$  の正規分布に従う)。

$\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k$  は推定されるべきパラメータである。

すべての  $i$  について,  $X_{1i} = 1$  とすれば,  $\beta_1$  は定数項として表される。

(\*再掲) 次のような関数  $S(\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k)$  を定義する。

$$S(\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k) = \sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2 = \sum_{i=1}^n (Y_i - \hat{\beta}_1 X_{1i} - \hat{\beta}_2 X_{2i} - \dots - \hat{\beta}_k X_{ki})^2$$

このとき,

$$\min_{\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k} S(\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k)$$

となるような  $\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k$  を求める。  $\Rightarrow$  最小二乗法

最小化のためには，

$$\frac{\partial S(\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k)}{\partial \hat{\beta}_1} = 0$$

$$\frac{\partial S(\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k)}{\partial \hat{\beta}_2} = 0$$

⋮

$$\frac{\partial S(\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k)}{\partial \hat{\beta}_k} = 0$$

を満たす  $\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k$  となる。

すなわち,  $\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k$  は,

$$\sum_{i=1}^n (Y_i - \hat{\beta}_1 X_{1i} - \hat{\beta}_2 X_{2i} - \dots - \hat{\beta}_k X_{ki}) X_{1i} = 0$$

$$\sum_{i=1}^n (Y_i - \hat{\beta}_1 X_{1i} - \hat{\beta}_2 X_{2i} - \dots - \hat{\beta}_k X_{ki}) X_{2i} = 0$$

$\vdots$

$$\sum_{i=1}^n (Y_i - \hat{\beta}_1 X_{1i} - \hat{\beta}_2 X_{2i} - \dots - \hat{\beta}_k X_{ki}) X_{ki} = 0$$

を満たす。

さらに,

$$\begin{aligned}\sum_{i=1}^n X_{1i}Y_i &= \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n X_{1i}^2 + \hat{\beta}_2 \sum_{i=1}^n X_{1i}X_{2i} + \cdots + \hat{\beta}_k \sum_{i=1}^n X_{1i}X_{ki} \\ \sum_{i=1}^n X_{2i}Y_i &= \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n X_{1i}X_{2i} + \hat{\beta}_2 \sum_{i=1}^n X_{2i}^2 + \cdots + \hat{\beta}_k \sum_{i=1}^n X_{2i}X_{ki} \\ &\vdots \\ \sum_{i=1}^n X_{ki}Y_i &= \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n X_{1i}X_{ki} + \hat{\beta}_2 \sum_{i=1}^n X_{2i}X_{ki} + \cdots + \hat{\beta}_k \sum_{i=1}^n X_{ki}^2\end{aligned}$$

行列表示によって，

$$\begin{pmatrix} \sum X_{1i}Y_i \\ \sum X_{2i}Y_i \\ \vdots \\ \sum X_{ki}Y_i \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sum X_{1i}^2 & \sum X_{1i}X_{2i} & \cdots & \sum X_{1i}X_{ki} \\ \sum X_{1i}X_{2i} & \sum X_{2i}^2 & \cdots & \sum X_{2i}X_{ki} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \sum X_{1i}X_{ki} & \sum X_{2i}X_{ki} & \cdots & \sum X_{ki}^2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \hat{\beta}_1 \\ \hat{\beta}_2 \\ \vdots \\ \hat{\beta}_k \end{pmatrix}$$

が得られ， $\hat{\beta}_1, \hat{\beta}_2, \dots, \hat{\beta}_k$  についてまとめると，

$$\begin{pmatrix} \hat{\beta}_1 \\ \hat{\beta}_2 \\ \vdots \\ \hat{\beta}_k \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sum X_{1i}^2 & \sum X_{1i}X_{2i} & \cdots & \sum X_{1i}X_{ki} \\ \sum X_{1i}X_{2i} & \sum X_{2i}^2 & \cdots & \sum X_{2i}X_{ki} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \sum X_{1i}X_{ki} & \sum X_{2i}X_{ki} & \cdots & \sum X_{ki}^2 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} \sum X_{1i}Y_i \\ \sum X_{2i}Y_i \\ \vdots \\ \sum X_{ki}Y_i \end{pmatrix}$$

を解くことになる。